

2020年6月21日（日）聖霊降臨後第三主日

銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞

「わたしの罪に御顔を向けず 咎をことごとくぬぐってください。  
神よ、わたしの内に清い心を創造し 新しく確かな霊を授けてください。」

詩編51編11～12節

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。  
み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。  
我らの日用の糧を今日も与えたまえ。  
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。  
我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。 アーメン

讃美歌 172 こころして待て、 主の御民よ

聖書 エフェソの信徒への手紙3章7節～9節

7 神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。8 この恵みは、聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました。わたしは、この恵みにより、キリストの計り知れない富について、異邦人に福音を告げ知らせており、9 すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。

牧会祈祷

天の父なる神さま。

日曜日の朝、神さまを礼拝する時をお与えくださり、心から感謝いたします。復活のイエス・キリストにお会いした弟子たちのように私たちも神さまとの豊かな交わりに加えられていることを覚えて、御名を讃美いたします。今日も、家庭礼拝をささげる者、教会堂に集まる者を御言葉によって導いてください。

近藤勝彦先生より御言葉を聞きます。あなたの御言葉で満たしてください。子どもたちの学校生活をお導きください。教会学校の教師が子どもたちが集まる礼拝を準備しています。聖霊の助けをお与えください。全国の諸教会の伝道をお導きください。東京神学大学における教師養成の日々を守り導いてください。伝道者として献身する志が一人でも多くの者にお与えくださいますように祈ります。

この祈り、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン

説教 「弱さの中に働く力」

近藤 勝彦 牧師

コロナ感染の予防の中で「命と経済」あるいは「命か経済か」とよく言われます。命や健康のためを思えば、人との接触を避け、外出を自粛するのが最良です。しかしそれでは経済活動はできません。経済が回っていくためには、出勤もしなければならず、店も開けなければなりません。命の維持と経済の維持は相反するところがあって、両方のバランスをとらなければならない、それが現在の課題と言われます。健康も仕事も確かに重要です。しかし命と経済、あるいは健康と仕事、それらが一番大事かと問えば、聖書はそうは言っていない。エフェソの信徒への手紙はパウロ直筆の手紙かどうかには疑問があるということはい前申しました。しかしパウロ自身の信仰とその言葉が根底にあることは明らかです。パウロは天幕作りを職業として生計を立てていたことはよく知られています。しかし聖書の中で、パウロが天幕作りの仕事について重大だと記している箇所はまずないわけです。「命と経済」「健康と職業」、それこそ二つの根本問題とパウロは言いませんでした。

今朝の箇所でパウロが語っているのは、「福音に仕える」ということです。「異邦人に福音を告げ知らせている」と言い、「神の秘められた計画がどう実現されるかをすべての人々に説き明かしています」と語っています。それがパウロの仕事にまさる仕事でした。彼の命と経済、健康と職業は、「福音に仕える」ためにこそ営まれたと言ってよいでしょう。それはパウロが使徒であったからでしょうか。確かにそうですが、使徒の生き様はまた、私たち誰もの生き方にとって無関係ではありません。私たちの誰もが、キリスト者として召されたことによって、「福音に仕える」者とされ、そのためにそれぞれの命と職業の生活を営んでいると言うべきでしょう。福音を告げ知らせ、神の御計画の実現をすべての人々に説き明かすことに私たち皆がそれなりの仕方に関与しています。つまり私たちは皆、誰もが、福音の伝道と証に召されています。私たちの命と経済はそのためのものと言ってもよいでしょう。

それでは「福音に仕える」とはどういうことでしょうか。「福音を告げ知らせ」「神の秘められた計画の実現を解き明かす」とも言われていますが、どういうことでしょうか。私たちにそれができるのでしょうか。どうしたらできるのでしょうか。福音とは、一言で言えば、神の御子キリストが私たちのために命をかけて死んでくださった事実です。それで神との間に、また罪の者である私たち同士の間に、破られることのない平和が築かれ、キリストの体である教会に新しい人として入れられて生きることが許されました。教会に生きる者が福音に仕えることは当然なことです。福音によって一つの教会にされたからです。

しかしこの当然なことがどのようになされるかという、そこには奇跡的なものがあると言うのです。パウロはこう書いています。「神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜わり、この福音に仕える者としてくださいました」(7節)。パウロが命と職業をささげて福音に仕える者とされたのは、神の恵みによったというのです。誰でも神の恵みを賜わることなしに、福音に仕えることはできません。その人自身の能力によって福音に仕えることはできないのです。逆にどんな人間でも、神が力を働かせて恵みを賜わるならば、福音に仕えることができます。福音、つまり十字架に架けられたイエス・キリストの救いと

キリストの復活を告げ知らせることができます。それはまた「キリストの計り知れない富」を証しすることだと言われます。恵みを賜わること、誰もが教会の証の営みに参加することができます。

そうすると、私たちの命と経済がそのためにささげられる「福音に仕える」という在り方は、私たち自身の能力や資格や取り柄によって遂行されるのではなく、もっぱら神の力の働きにより、恵みが与えられることによって遂行されます。使徒パウロは当時の社会で見れば、その学識や能力に関しておそらく抜群の人でした。しかし彼は、「この恵みは聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました」（8節）と記しています。別の手紙でもパウロ自身が「わたしは神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でも一番小さなものであり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です」（一コリ 15・9）と書いています。ここでは「使徒たちの中」でなく、さらに「聖なる者たちすべての中」つまりおよそキリスト者全員の中でということ。すべてのキリスト者の中で「最もつまらないもの」問います。これは最上級の「最もつまらない」にさらに比較級「よりつまらない」をつけて「最も卑小な者よりもっと卑小」という言葉です。徹底した自己卑下の表現ですが、そう語ることによって、圧倒的な恵みの働きを語ったと言えるでしょう。

私たちは福音に仕えています。特にそうは言えそうになくとも、福音を告げ知らせる教会の働きに共に参加し、神の秘められた計画がどう実現されるか人々に解き明かす教会の伝道運動の中にいます。その中で皆さん自身、キリスト者として生きて、証ししています。誰もその能力や資格があるとは言わないでしょう。言いたくても言えないかもしれません。しかしキリスト者とされて福音に仕えているのは、ただまったく神の力の働きによって、恵みを賜わっているからです。ですから、私は資格がないから福音に仕えないとも言えないわけです。ただ恵みの賜物がなかったなら、到底できないことに今にもあずかっていると承認するだけです。恵みを語る主の言葉は、パウロが聞いたように、「恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮される」です。

エフェソの信徒への手紙は、ある研究者の言い方では、「自分たちが悪魔の王国によって抑圧されていると感じていた小アジア西部の諸教会」に宛てて記されたと言われます。悪魔的な力による圧迫は外から来ますが、内部に蔓延します。コロナウイルスのようなものです。すると信仰者の心がすさみ、不安が生まれ、主にある人々の間に分断が生じ、信仰は曖昧になり、冷たくもなく熱くもないものになり、そして愛が冷えます。そのとき聖書はパウロという一人の立派な模範を示しました。しかしその人は真っ先に自分に倣えとは言いませんでした。自分は全信仰者の中で最も卑小な者よりもっと卑小な者であると言ひ、その自分に、神はその力の働きによって恵みを賜わったと語ったのです。彼はその弱さの中でこそ発揮される神の恵みの力によって、キリストの福音に仕える道を歩むと語ったのです。神の恵みの力なしにやれることは、およそ大したことではありません。人生の決め手にも、社会の決め手にもなりません。世界の政治を見ればよくわかることです。人間の救いになりません。救いは、神から、恵みによって、人間の弱さの中でこそ力を発揮して前進します。

私たちが仕える福音は、キリストの計り知れない富とも言われます。主は私たちのためにその命をささげてくださいました。そして復活のキリストとして共にいてくださいます。その富は計り知れません。恵みを数えるとよく言います。私たちは気付かないうちに多くの

恵みを受け、今現在に至っています。その恵みは、数えることができるほどに具体的だということ。しかし数えるといって数えられるものではありません。いま自分がここにこうしてあること、私たちが今日あるのは神の恵みです。振り返って、色々な時に与えられた助けがあります。人々との出会いを介し、家族や友人との交わりを通し、支えられてきたことも神の恵みです。特に信仰を求めるとされ、そして神を信じる者とされたことは神の恵みです。礼拝にあずかり神の言葉を聞く者とされ、祈る者とされたことは神の恵みです。何よりも罪を赦されたこと、そして神の子とされたこと、神の国を継ぐものとされ、約束のしるしとして聖霊を与えられたことは神の恵みです。それゆえどんなときにも望みを失わず、何ものによっても神の愛から引き離されない者に、キリストにあつたされたこと、それは神の恵みです。福音は、恵みであり、キリストの計り知れない富と言うしかないでしょう。キリストにある神の愛から計り知れない、数えきれない恵みが注ぎ出しています。そのすべてが神の恵みであることは、すべての慰め、喜び、力が、私たち自身の弱さによって少しも衰えないで、むしろ私たちの弱さの中でこそいよいよ生き生きと力を発揮させることでわかります。感謝して祈りましょう。

〔祈り〕

天の父なる神様。聖書の御言葉に聞きつつ、礼拝をささげることができます幸いを、心より感謝いたします。あなたの恵みは私たちの弱さの中でいよいよ力強く働く力です。その恵みの力によって、福音に仕える者とされておりますことを感謝いたします。世界中の人々が、本当は求めている福音を、各地域の教会が生き生きと伝えることができますように導いてください。銀座教会の幼子から高齢者まで、一つになって、福音に仕えることができますように、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

アーメン

祈 禱（各自、自由にお祈りください）

祈禱課題 新型コロナウイルスの世界的収束と終息の日が来ますように  
病に苦しむ方々、医療従事者のために聖霊の助けをお与えください  
私たちが聖霊の助けにより福音を大胆に語れますように  
自粛によって弱った心と体が癒やされますように  
教会に仕える献身者が起こされますように

讃美歌 492 かみのめぐみは いとたかし

献 金

頌 栄 544

祝 禱

安心して行きなさい。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン